



諸
文
抄
集
全

ヤ 9
1126



羅氏藏方卷之上目錄

中風 一 食傷 卅 毒 一

嘔吐泄瀉 三 腹痛 四

心痛 五 毒虫咬傷 六

竹木刺 七 丹毒 八

打撲 九 破傷風 十

湯火傷 十一 體氣 十二

骨軟 十三 牙高痛 十四

口舌 十五 咽喉 十六

咳嗽 十七 腹痛 十八

白濁 十九 遺精 二十

婦女 二十一 雜症 二十二



303

91-2056

韞匱藏方卷之上目錄

中風	一	食傷附中毒	一
嘔吐泄瀉	三	腹痛	四
心痛	五	毒虫咬螫	六
竹木刺	七	丹毒	八
打撲	九	破傷風	十
湯火傷	十一	體氣	十二
骨散	十三	牙齒痛	十四
口舌	十五	咽喉	十六
咳嗽	十七	頭痛	十八
白禿	十九	頭面	廿
諸失血	廿一	脚氣	廿二

卷上

諸瘡	卅三	眩暈	卅四
眼目	卅五	解頤	卅六
耳疾	卅七	鼻疾	卅八
酒渣鼻	卅九	脚氣	三十
霍亂	三十一	陰囊	三十二
痔并脫肛	三十三	小便閉	三十四
痲病	三十五	大小便閉	三十六
諸瘍腫	三十七	瘰癧	三十八
癰疔	三十九	結核	四十
疥癬	四十一	臙瘡	四十二
代指	四十三	嵌甲瘡	四十四
瘦瘤	四十五	癩風	四十六

凍瘡	四十七	毛髮	四十八
跌趾	四十九	便毒	五十
下疳瘡	五十一		
婦人	五十二		
小兒科	五十三		
補遺	五十四		

小一棗いざな浸ひ于粉こな中ちゆう或ハある湯ゆ用

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

食傷いけがう附中毒ちゆうどく二

一食い噎え過か腹はら脹はら痛いた小こ麥むぎ芽め炒やて

粉こな中ちゆう月つきへ

又秋田あきた川がはりるるるああふふおおこことと

忌いままのの此こゝ所ところありありとと粉こな中ちゆう

ささゆゆてて月つきへへ食いててもも

一食傷いけがう小こ中ちゆう毒どく小こ羅ら石せき草そうとと

池いけ邊へひひるるをを丸まる云いせせのの葉は小こ

似にるる浮うききああるるとと陰いん干かん中ちゆうでで

粉こな中ちゆう月つき妙めう也なり

一諸食毒しよしよくにああるるをを甘かん豆とう湯ゆ

本草ほんそう黑豆くわいとうとと煮に又また丹たん毒どく草そう

等分是——用口不入を即ち治ると
金匱玉函經の如し

一諸菌の毒ハ生薑と下を汁に
多く用て——法多れ毒を去る

又菌乃毒を治るるに防風一味
炙して冷して用汁妙也

一巴豆の毒小あつて腹下りしを
黄連干姜等分粉して水ゆて

用即吐止る也 時後方之如し
一洗食毒にあつて吐るを并麻附金

二味等分末してさゆて用妙也
一河豚の毒を治るは極の末乃

皮と炙して用又澱粉別して煮

鹽葉は去る焼してさゆて用
もろ——又澱粉等分して煮

澱粉乃物とせんゆの汁と
用 又詭りて蛭を吞腹痛するを

う——又鯉臭をえいしうもよく
一蟹乃毒を治るは蒜乃根を

搗ちて吞て——又芦根を
炙して用るもよく——又紫蘇葉を

炙して用て去 金匱玉函の如し
一諸乃臭毒にあつて吐るを鴨嘴

爪羽尾腸と去る焼してさゆて用

一 芥乃毒甚秋ハ毒ある物なりその毒
 小あさりなるハ氷砂糖多食しし者
 一 瓜西瓜及之等の菓食を食し方々
 麝香がくさくさ月又塩湯も用て
 一 一切菌乃毒ありし者ハ梅乃皮を
 陰干粉にして用也木れ皮をせん
 用てもう
 一 酒毒ハ赤小豆れ乾し茶を陰干
 粉にしてさゆくおいて用
 又芥子れ乾陰干末してさゆて用
 又杏仁は乃る一減用るもう

一 酒と多く飲ひぬる者ハ冷水みて
 頭としり又ハ拭て水浸し胸
 におき上り冷水浴をきいて
 一 酒と止んとぬもく蒼耳子焼末
 酒み入飲用しとのづうとぬる也
 一 輕粉の毒みろく筋骨痛むハ
 山拵と沸湯水泡するの三五して
 晒し乾し末して多小て丸し天花
 粉と衣水うけ毎日空腹より十粒つ
 温ほして用又山梔子胡椒乃皮と等分
 末し月小便より輕粉下る也
 一 毒して諸毒喰合ふ甘草某豆

丹会也矣一月て

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

嘔吐泄瀉 三

一大ぬ嘔吐泄瀉乃後手足厥逆心氣
心々次或々交合乃後小腹急痛
外腎綿綿冷汗出やうきいを葱乃
白根と炒藥して臍とらうし厘一
同葱白廿莖とらう擣爛一はちて
煮て少一ヶ月て

- 一嘔吐悪心兼食より受方にい三稜
- 一兩丁子二分末して沸湯に攪せ用
- 一泄瀉年存久痢久瀉よ吉き破石椒
- 皮末して二五米飲して用也 後とい
- 一血痢瀉血小未賊五錢水差温服と

卷上 七

一元氣不足山食う事は山薬生ハ
生ハ妙未してや、此湯先月
禁口痢も

一六五...
一六六...
一六七...
一六八...
一六九...
一七〇...
一七一...
一七二...
一七三...
一七四...
一七五...
一七六...
一七七...
一七八...
一七九...
一八〇...
一八一...
一八二...
一八三...
一八四...
一八五...
一八六...
一八七...
一八八...
一八九...
一九〇...
一九一...
一九二...
一九三...
一九四...
一九五...
一九六...
一九七...
一九八...
一九九...
二〇〇...

腹痛 四

一 九腹痛ハく山のい胆を引へ
一 冷て腹痛ハ或ハ冷物と食して痛ハ
胡拵こせ四五粒塩湯にて用又ハ艾葉と
杵みして湯ゆきて用へ
一 麩うん敷と之食へ腹脹々々
杏仁末してさあてさあてのどへ
一 大便ハひ蛇虫たこま次こまかこまくこま鶴虱こま力こま矣
まして糊のりして丸へ用
一 蛇虫と吐くハ山拵又ハ丁子と少
刺て

心痛 五

一 心痛い淋はく痛し姜黄一両桂
末して醋湯うけて用へ
又冷氣心とけき切らぬくつじり
菘木と二枚研りて麝木香と煙して
一 ぬるり末して淡石湯うけて用へ

毒虫咬螫 六

一 蝮し咬まらる鴨妬草乃花葉
もてけりある口ぶらけり
又紫菊一寸程上切らる一寸程下
北へ水突く多飲へ一但一此
茶油用髪も上下敷て之に
又毒鴨乃馬焼てその口あふ
又後炮して酒と少一痲乃うと捻
り火とけて之を敷て
又壁乃隅に綿をこし乃は成蛇乃
足細き尾乃丸き小き蛇なりその
尻乃丸き末と下はくけり

身小瘡しんせうそき江のよ葱乃しんり羊ひつじ尖せんとを
その内へ蚯蚓いんす一筋入いんす為のいんすをいんすけり
縛へいんすをハ蚯蚓いんす水いんすと成也その山をいんす口
けりいんす

一患いんす一その虫小ゆれ方よ明答いんすやき
ふいんす一いんす一いんす一いんす

一鼠小咬いんすたふよ本いんす流いんすれ核いんすといんす焼いんすと

煙いんすくくふすべて妙也又阿膠いんすといんすすく

去いんすそういんす一いんす茶いんすれいんす煤いんすおいんす一いんす入いんすていんす口

西いんす分いんすていんす妙いんすなり

一鼠いんすれ小便日小入いんするよ猫いんすれいんすたいんすき

といんすりいんすていんすくいんす

一丸小咬いんすよりよ白菓仁いんすといんす纏いんすういんす一いんす葉
又砂糖いんすけりていんす一馬いんすの咬いんするいんすよ

一猫いんす小咬いんすき又ハ爪いんす小いんすていんすきいんすやいんすたいんすた

らいんすらいんす腐いんす荷いんすれいんすきいんすといんすきいんすをいんすけりいんすて

ぬいんすりいんすていんすくいんす

竹木刺 七月小が主又ハを乞き

一 夏小が主より甘州輕節二色

一 糊小押はせし又蠅と

一 又指樓根つき燻りし針肉入

一 又牛膝根差りし

一 又手塚うしけり久し

一 何れも効なき小葛麻子皮を以て

肉とせけ乃きりて入るべき細とあて

をよみいしりてせしとけぬきを

をよみいしりてせしとけぬきを

を焼煙かきよきて又破巻に

を焼煙かきよきて又破巻に

新しうて水と飲へ

一 後熟立りし鼠糞に巴豆少入

一 糊小たりしをせし入る

一 竹木肉入はけりて蕃薇と燻り

一 して一夏つ水と飲て數日乃

一 心よむるなり

丹毒 八 俗より一尾を又
といふ

一赤遊風と云方く火ぶくまの赤くも
しつくとおやあぶの痛む也
五味子と焙り末して温酒小て
用妙なり

一赤遊風と云方く火ぶくまの赤くも
しつくとおやあぶの痛む也
五味子と焙り末して温酒小て
用妙なり

六の打撲 九

一赤身少を蘇方本法も酒と水と
等しく煮て用又草麻の葉を
すりこみ酒に入れて用
一合歡皮一長酒に浸し是酒を
消末して温酒にかけ用
用て用又酒製乃接骨木酒製
當歸合歡皮酒製各々分る合
是酒をして温酒にかけ用て用
一赤傷も又も金瘡も血を止る
左何れも三色丸をせよ
くは此の癰之類なり即ち血止る

痛も止まり但血流す知れりハ
右乃差減上るを呼して血をのり
疝之血一を分れを止るまで
しむる

一抄方腫しむハうん乃粉也
そらうと等ふ末一生姜汁
とて経る

一骨抄をきたるハ山中由忌やま
末して山の草生えり合せ分
てそらう柳乃皮を末して
一をきり唐又を唐馬して腹痛ハ
先酒と多く飲一大便血下りて

即内々愈る也

又瘀血をいれぬるも或ハ血とくハ
荷葉或ハ蔞干又ハ黒燒介で童便
とわつとして撃たて用婦人産後の
心痛ふも童便を月抄ありハ
酒と月抄あり

又抄撒一乃く菜豆少抄抄と
一七鶏乃卵のけを煉分る

又揚梅皮と小麦を粉よして水と
抄分て

又抄疝腫痛之流きハ乳香及菜
菜乃粉を少抄酒とて煉痛下

紅妙方

又強き方身言治もろくはる小八急之
者人乃口小便と経入毎一
又葛葉子 妙粉方にて二三好ほと
温り用由能筋を洗き骨汗はく也
一才方にて痰血胸之滞一氣短く同乱
そろく胡椒一錢水と用て
一爪少くやう痛血を去馬賊骨
乃古き口の方と去そけく
血と能止痛も能止る方又
乃乃此之麻くろくを湯と
油と煉行る也



破傷風 十才より凡て發する

一破傷風と名の疾より風邪入或ハ水
氣病入寒發甚交身そそ
口噤^{くつめ}なりして危き馬糞^{ばせん}以て
その瘰^{れい}と薰^{かき}へ一瘰口より付て
愈ると本州綱目にも知る又鯉^いの
目と馬糞^{ばせん}灰ふくして付て一瘰
より付て念るなり

一破傷風瘰乃上白くさして血
乃とるに之の危一雀^{すずめ}乃^{うらな}三毒^{さんどく}
妙方して五分發^{はつき}ほく用

乃其粉少して管少して咽吹入る
 毒を吐くはげしく吹入る毒を吐く
 又薰陸香と粉少して南天の葉を炙
 けし丹又薰陸香を炙るをでも名
 一魚骨咽より少く白芍薬汁を汁
 を吞てく 事林廣記少く
 又皂莢を末して鼻に吹入て嚏出て
 骨があらうらわゆる也
 一涎を呑咽より少くはげしく鳥糞と
 まりけを少く吸てく 涎水くわゆる
 一芒咽より少くはげしく六銘を食てく

牙齦痛 十四

一齦痛甚しき不脱皮少頃おつて
 痛い毒少くはげしく是て即ち止る也
 又良分小口へはげしくこれ叫ら
 せ思惟少して毒乃ち治る也 妙なり
 又蜂房山柝 目と毒等分粉少して
 く 水灸くはげしくはげしく吐く也
 一 是くく物云屋を又空くも
 必々焼かへく 走馬牙疳少く
 又蘆薈冷末 虫毒に修て妙なり
 一 破物と毒くはげしく胡桃の内皮
 かく爛くはげしく生着湯くはげしく

一 歯痛牙齦^{くはいた} ぬれ^ぬる^る 荷葉^{かふく} 馬燒^{ばやう}
 又古き^{ふる} 茄子^{かすひ} づ^ひ 多^{おほ} 黒燒^{くろやう} 明石^{あかし} 燒^{やう} 分^{ぶん}
 未^ま して^{して} 齧^か る^る 也^{なり}
 一 牙^は 痛^{いた} り^り 濁^{にご} く^く 痛^{いた} 頰^ほ 腫^は る^る 桃^{もも} 乃^{なり} 木^き
 の^の あ^あ ま^ま る^る 柳^{やなぎ} の^の 木^き の^の あ^あ ま^ま る^る 槐^{あじき} 木^き の^の
 あ^あ ま^ま る^る 各^{おの} 管^{かん} 分^{ぶん} 酒^{しゆ} 之^の 類^{るい} 一^{いつ} 焚^{たき} 火^ひ と
 少^{すく} き^き 冷^{ひや} ま^ま 八^{はち} 吐^{はき} 出^で せ^せ 一^{いつ}
 一 薑^か 動^{どう} 小^{せう} 升^{しやう} 麻^ま 天^{てん} 母^ぼ 各^{おの} 生^{せい} 羊^{やう} 減^{げん} 未^ま 一^{いつ}
 葉^は 之^の 類^{るい} 一^{いつ}
 一 薑^か 日^{じつ} く^く 長^{なが} く^く 成^{せい} 食^{じき} 下^げ る^る の^の 如^{ごと} ち^ち 也^{なり}
 髓^{ずい} 溢^{あふ} 病^{びやう} と^と 白^{はく} 水^{すい} と^と 水^{すい} 之^の 類^{るい} 一^{いつ}

備急良方

一 牙^は 齧^か り^り 血^ち 出^で 中^{ちゆう} に^に 齧^か る^る 肉^{にく} 減^{げん} 盡^{じん} も^も 乃^{なり} 以^も 此^{こゝ} 宣^{せん} 露^ろ と^と 也^{なり} 麦^{むぎ} 之^の 水^{すい} 之^の 類^{るい} 一^{いつ}
 合^あ せ^せ 一^{いつ} 又^{また} 白^{はく} 疾^{じき} 藜^{れい} 子^し 未^ま 一^{いつ} 研^{けん} 末^{まつ} 一^{いつ}
 ぬ^ぬ 之^の 類^{るい} 一^{いつ} 又^{また} 倍^{ばい} 子^し 黒^{くろ} 燒^{やう} 未^ま 一^{いつ}

口舌 十五

一 舌^{した} 腫^は り^り 口^{くち} 中^{ちゆう} に^に 塞^{さい} る^る 事^{こと} 急^{きゆう} 酒^{しゆ} 赤^{せき} 苧^{じゆ} 菜^{さい}
 丹^{たん} 州^{しゆう} 管^{かん} 分^{ぶん} 藥^{やく} 一^{いつ} 焚^{たき} 一^{いつ} 録^{ろく} 聖^{せい} 濟^じ 總^{そう}
 一 口^{くち} 舌^{した} 瘡^{そう} 如^{ごと} ち^ち 黃^{わう} 連^{れん} 細^{さい} 辛^{しん} 母^ぼ 各^{おの} 合^あ せ^せ
 粉^{こな} 一^{いつ} 研^{けん} 末^{まつ} 一^{いつ}
 一 小^{せう} 兒^に 蛾^ご 口^{くち} 俗^{ぶく} 之^の 類^{るい} 一^{いつ}

小磨白くろくも乳食するものなり
天南星と粉と一して研ぎて湯で洗ひ足乃七つ
うをふりて妙なり

一重舌ハ俗に小舌といふ屬其分て妙也

又重舌腫痛ハ蜂房と炙り研末

ゆきまきせけり妙なり

又重舌大くは危にハ小舌れた石乃口き

小平汁とて炙り切血と元湯兼令散

を分

一本舌ハ舌のうすくして言重なり

ゆきまきせけり妙なり

又蛇脱皮焼末一乳と湯

舌とて

一舌縮り口より言の成りて甚なり

舌のりて

一口氣臭きハ藿香炙りゆきまき

又細辛一味せん合て

又香薷と炙りゆきまき一金方

一口中多しは之の生黄柏焼粉

焼く細辛少大末一蜜少を添

ゆきまき

一小児噤口ハ之を以て食粒とて

まを衣れ方ちハたうたうハたわれ

七はゆきまきゆきまき妙なり

咽喉 十六

一咽之れ痛く山も川も焼く道も狭く
 含てり又管少く吹入る又管葱
 瓜も焼くて頂上けり
 又葱芥仁乃粉吹入り
 一咽腫痛ハ黄柏と生え未一砂を
 砂一咽乃吹入り
 喉痺ハ咽候々腫さるるあやふ
 江ノ流方より又元味若生え未
 一して清く咽吹入る又刀豆も焼
 かりて管少く吹入り
 一丸懸癰又ハ纏喉風喉痺ハ各咽の
 天

腫物也ハ角懸癰の腫物も証候
 痛也咽小上わらうらうら俗小
 ひこりよる腫物如朱らと懸癰
 又よる妙牛房子玄参各管分耳叶
 か葉一かつふい咽一纏喉風
 を喉乃内かく腫飲食なりかく
 粒候るもの知れ三六日れろ破き
 うり切りも危き症なりこれふも
 右乃其類なり
 又纏喉風少く咽かく腫候食候り
 危きハ各管吹入りて焼くらじその
 一ハ巴豆三粒入薬て喉管乾き巴豆

喉(のど)の腫れを治す
唯(ただ)吹入(ふきこ)して治る也

咳嗽 十七

一久咳(くわい)止(と)めしむるに
仁(に)末(ま)して申州(しんしゅう)の膏(こう)の
一(いち)吹入(ふきこ)して治る也

撰(せん)生(せい)方(ほう)也

一(いち)痰(たん)咳(がい)多(た)く切(き)りて治る也
一(いち)痰(たん)胸(きょう)之(の)咳(がい)止(と)めしむるに
旋(せん)覆(ふく)花(け)七(しち)片(ぺい)に九(く)菘(しゅう)皮(ひ)設(せつ)等(とう)と
陰(いん)干(かん)小(せう)して治る也

頭痛 十八

一(いち)何(なに)も治(ち)らぬ頭痛(づうとう)は
を末(ま)して鼻(び)へ吹(ふ)き入(い)れしめて治る也
一(いち)年(ねん)久(く)く頭痛(づうとう)止(と)めしむるに
一(いち)年(ねん)久(く)く頭痛(づうとう)止(と)めしむるに
又(また)白芷(びやくし)荊(けい)芥(がい)を
吹(ふ)き入(い)れしめて治る也

一(いち)偏(へん)頭(とう)痛(づう)ハ或(ある)ハ左(ひだり)痛(いた)む
堆(たい)黄(わう)細(さい)辛(しん)を末(ま)して左(ひだり)痛(いた)む
の方(かた)右(みぎ)痛(いた)むハ左(ひだり)の方(かた)に鼻(び)乃(すなは)ち穴(あな)へ吹
入(い)れしめて治る也
一(いち)頭(づう)腦(のう)乃(すなは)ち中(ちゆう)鳴(めい)虫(むし)の音(ね)を治(ち)る也

良の好く薬の實は効くして鼻の口
へ吹てくく又頭痛具通し痛ふ
荊芥細辛川芎芍薬未で合た
さゆく用

一腦風頭痛甚しきふ遠志の末鼻
吹てく

一天氣曇り雨ふ風吹小腹痛す
頭風と桂心と末して酒に漬し
羊類乃角へけく

一患しての頭痛ふ妙方白芷妙二枚
川芎妙川烏頭半妙半生各一箇ぬ服
六錢柔ら薄荷の實湯に用

白統 十九

一白起膿けそく愈成りハ取
白の貝殻灰ふて雷丸乃油にけり
又昔椶皮末を杖で焼まし猪の油にけり
一頭禿は頭髪法乃大にけりふて
髪くはらへ蕪菁乃子研はけり
酢に漬し一日小三度つる又買衆
乃煎焼とろまけりあてけり 聖惠方
一髪乃白屑と蒸蘆乃根みく
髪にけり又蚕沙灰に焼多ふ入
滓を去て髪へけり

一 髪に虱がけりて髪乃を湯に焚湯に
 浸し水浪が加へ髪を布で包み
 つし二枚に根を洗く也
 一 周身に虱生ずるを研とあらはれ
 盥ふ一ツ程く髪にも一日一度も
 二度とも研を根をぬく也
 一 左右に腮腫るを非癒と云石灰を
 研し洗く也
 一 蝦蟇瘡を面乃頬に也側柏葉の
 汁と蚯蚓の内乃泥とませぬ
 一 面小粉刺を馬齒莧水に煮
 けて又鶏乃玉子灰三辛研言浸

三十一
 三十二

一 小兒頭面小瘡を水に合す痒小
 蛇床子天輕粉小右末して油に
 漬けて一とと餅瘡と名く
 一 面小雀班を黒牽子灰末して鶏の
 玉子乃白と合せば赤瘡を面小瘡
 母粉末湯に洗く又李乃仁を研
 ぶき鶏乃玉子灰白と合して瘡
 面小瘡を研釣研して去油へ白粉
 風をわらふ也
 一 落架風をそとくぬるも天南

三十一
 三十二

星と去して生養れ居るけし終るは乃
頰骨の骨の一本乃肉より成るなり

又酒と碎やくれし睡の内より皂莢
赤して鼻乃肉吹入嚏して治すなり

一以髮長せしむる麻と桑葉の葉を分小
併してせんじを治すなり

諸失血 此一金瘡折傷吐血下血尿血
便血衄血咳血等也

一金瘡内漏ハ俗之血乃胆(膏)也 牡丹皮
赤して水と煎れく血小便より下也 千金方

一吐血衄血下血尿血小荆芥縮砂等々
赤して陳皮煮湯く童便と煎(一)夜小

二五粒用て妙なり

一吐血小血衄血小貫衆灰赤して水と

煎中又俗之髪をてんた又きちん毛も

上より根形ち毛虫の虫く麻と毛油

丁を去却ひじ漫火して妙香色

赤して未飯おて空腹に婦人産

後血崩小血白芍薬を犀角の末を

一吐血衄血小血崩小五灵脂赤して
新汲水と煎 古今録驗出
一或ハ多く憂う又ハ怒りて吐血小
あり側相葉灰赤して米飲く用又
童便をく用てむ

砂入漫火を移し蒲黄等からせて
龍眼肉の大きき丸を童便と水とを蓋つ
て七分後一温服すべし

一酒を好む人酒を吐血するは温飽乃粉

方いざよふ止るをせしめて二又

京墨をくすりしめて貝蘗を根乃

節乃をくすりしめて貝蘗を根乃

一吐血血下血をくすりしめて機桐乱髪馬鏡を

くすりしめて米飯にして用妙なり

一もろく血をくすりしめて龍骨をくすりしめて鼻血をくすりしめて

一或ハ疔或ハ瘡を破り血止るをくすりしめて

五灵脂の末をひきりて則止るなり

一或ハ切癩疥癬も早血止小ハ何なる

一も三をくすりしめて合せ小癩小ハ

直に癩へくすりしめて大癩血多くくすりしめて小ハ

癩の上よりくすりしめて血の勢をくすりしめて

一五八草 黒鏡 灵天蓋をくすりしめて

舌の上をくすりしめて血止る小癩をくすりしめて

癩へくすりしめて

又山がくすりしめて又粉乃をくすりしめて血を

止るに癩をくすりしめて大癩をくすりしめて

下血ハ艾をくすりしめて灸して

一血血ハ艾をくすりしめて鼻中へくすりしめて

癩止

曰艾草灰水と交へて用ひ
又大蒜乃根を研き粉にたし右の
足右へかたれ足はくく七流の波へ
厚くくして

一大血血上眩暈し危きハ乱髪成
鏡粉して一五水と用ひて
右乃粉灰鼻へ吹入て
又驢驘竭蒲黄等末を鼻中吹
一婦人逆經して丹水通せ口鼻より
血出ると京墨灰を研香へ血を止
めて後當飯尾紅花等を煮ぬ
是れ丹月水と通下り

一尿血ハ小便と血出る也蒲黄五分乱髪
と燒等分生地黃乃汁と用ひて
一小兒の尿血ハ甘草を月又升麻一味
と用ひる也

一下血日夜多く下るに黃連黃柏各
二兩桑根二重入一重と用ひる也
蒲黃炒少く加て妙也

一灸瘡血もて止るも足も冷て危小
酒炒る多分末して酒して用

一大便多くと下血を石華灰末して
二及茄子の枝と用ひる也

一多羊下血止るも又多く下るも黃柏

わら皮と去む子乃白と付多し赤して
水と緑豆の大きき丸一箇と一分小
七八粒つゝ用又梅干黒焼末してさゆと
用也又赤とくくつにゆと

一酒と多く飲下血とくく槐花十文並分
生半分ハ炒 山梔子炒大文子小生一
新汲水とく用

一下血と天南星と石灰等と炒酒糊と
丸酒と二平粒わつ用

一大便後と下血とくく五倍子末して
一又艾葉乃せんけと用

一腸風下血とくく血と下と鯽魚乃

腸と去鱗とくく月腹乃内五倍子乃
粉と使先七とくく大と焼粉して
一又酒とく用

一臟毒下血ハ血濁とくく五倍子半ハ生
半ハ焼粉して陳米乃糊と大豆液
とくく三四粒空腹と粥乃上湯とく用

一小兒乃下血と五倍子乃末と蜜とゆと
小豆乃大ナと丸一食乃さうゆと用葉の
多かを小兒の大少とゆと用

一吐血諸葉とくくかきハ桃奴とて桃の
葉乃ゆきて末とくく煎ゆとく用
忌燒ゆきて末飲とく用妙也

脚氣 九二

一 足^りの歩^り行^り成^りび^び草^草身^身頭^頭細^細辛^辛
防^防風^風の^のま^まあ^あて^てか^かい^い水^水を^を穿^穿き^き鞋^鞋
乃^乃と^とま^まあ^あて^てく^く一^一妙^妙なり

諸瘡 九三

一 名^名を^をま^まき^きの^の米^米物^物ハ^ハ竹^竹乃^乃と^とま^まあ^あて^て焼^焼鶴^鶴
の^のお^おま^まれ^れ美^美し^しく^く研^研り^りける

一 腫^腫物^物悪^悪肉^肉つ^つき^きを^をう^うる^る烏^烏梅^梅肉^肉焼^焼て^て性^性
を^を研^研り^りて^てけ^ける^る又^又生^生れ^れぬ^ぬ香^香末^末一^一て^て
捻^捻り^りか^かけ^けて^てけ^ける

一 諸^諸瘡^瘡癩^癩癬^癬の^の苗^苗藪^藪と^と癩^癩一^一次^次妙^妙也^也

一 千^千日^日瘡^瘡又^又ハ^ハ魚^魚の^の目^目に^にハ^ハ白^白米^米一^一粒^粒と^と魚^魚
の^の目^目の^の上^上を^をお^おり^りて^て墨^墨に^にて^て米^米の^の上^上十^十の^の
字^字と^と書^書て^て溝^溝の^の内^内に^にか^かき^きハ^ハ其^其米^米を^をう^うる^る
也^也との^の時^時に^に魚^魚の^の目^目を^を洗^洗ふ^ふ也^也又^又垢^垢を^を洗^洗ふ^ふ也^也
と^と切^切ぎ^ぎと^とれ^れて^てけ^ける

一 藜^藜藜^藜面^面野^野小^小山^山慈^慈姑^姑の^の根^根を^をき^きき^きり^り
表^表の^の上^上で^で研^研り^り去^去る^る一^一又^又白^白米^米を^を研^研り^り
て^て日^日に^に扱^扱て^てけ^ける

一 小兒頭瘡にハ鷄乃卵と奏て煮て
すり炒ハ油智也その油を煙粉かき
の油が入丁ハ酒入けてもる也

一 小兒肉蝕瘡之類連治未でけり

肉蝕瘡ハ耳れ後れはこし切る瘡也

一 口吻の小瘡小松柳子黒燒未で煙粉

かき入る也油少でゆりける瘡小

あかりあつバ只ゆりける也

又胡椒一分黄連一ふ未で明紅少

ゆりける

一 男女大人小兒ふせきり小瘡濕瘡小

木槿乃皮とかりあつ皮とみ去て白皮

灰目ふ干粉ふして煙粉かき入水と
雷丸の油かき入てもる

眩暈 廿四

一天麻丸風痰と去頭目眩暈

頭痛肩頂ひきり筋く高痛

皮膚かやく面目虚浮

天麻半兩川芎三兩未で蜜と丸

食後小茶を酒少で一丸

一 目腫痛小三七草根つき汁と目の白濁
 出ら又決明子炒み葉小酒(兩の大湯
 小なる乾ハさく)とる鼻かて止らるふも
 右のくくくくくくくくくく 醫方摘去
 一 風眼少く目腫努肉公痛小五倍子録青
 白聖等く移よして湯と拌せ目とやみ
 てはく冷ハ又温てくく 目の内外皆
 小點とく 外臺秘要ニ出
 一 突目努肉出或ハ痒く或ハ痛小杏仁皮
 とり二文煙粉とすく合せ絹みつて
 湯と侵く目ハ愈く

又努肉出睛陷くく地膚子小葉
 目と液又目(ちるまほ)く入痛ふもく
 一 突目赤目痛甚く或ハ赤肉内の
 若荷の根とつきまわり移移あて
 赤目(くくま)ハ即時痛止るる
 一 翳膜を生しすしふ石決明外と
 すと去内のひろくを移ふして水飛し
 て目の内(か)らるる
 一 癩瘡は目損つるく黄丹輕粉等
 かみしてかて取れ中へ吹入べした
 りくハ右の耳たらくハ左の耳へ吹入愈し
 一 突目又くハひくもせくひくも又く

ほろり入るまじる黒くろ焼やき上野かしの椀わん

新あらた丁ぢやう合あのの多た茶ちやらら

一いっ瘡さう瘡さう目め小せう蚯きん蛇だとく肉にくのの去きてあはひ

去きてつゞく目めの肉にくはますますますま

一いっ小せう兒に疔ぢやう疔ぢやう氣きと脾胃いれれ伏ふかかきき雀せう目め小せう

成なりららぬぬ鱈たう魚ぎよをを炙ありり脂あぶらのの切きりり湯ゆと

くくららせせてて油あぶらををくくけけてて又また灸しゆ目めをを

又また灸しゆのの鱧なまこをを右みぎのの灸しゆりり灸しゆりり目めもも一いっ灸しゆ

灸しゆりり目めもも一いっ灸しゆりり目めもも一いっ灸しゆりり目めもも

灸しゆりり目めもも一いっ灸しゆりり目めもも一いっ灸しゆりり目めもも

灸しゆりり目めもも一いっ灸しゆりり目めもも一いっ灸しゆりり目めもも

灸しゆりり目めもも一いっ灸しゆりり目めもも一いっ灸しゆりり目めもも

かか入い目め小せうすすべべ一いっ又また目め痛いたくく泪なみだをを出ですす

着きけけかかくくくく加かへへててくく

一いっ倒たふ腫はれとと肉にくのの毛け生せいしし目めああききつつははぬぬ

石いし蘇そ川がわ各かく各かくをを粉こなううてて病びやう人にん乃なり

口くち中ちゆう水すいををくくまませせ右みぎのの茶ちやとと左ひだりのの目めをを

右みぎのの鼻はな乃なり肉にくたたくくたたのの鼻はなのの穴あなへへ

一いっくくまませせ目めハハ栞しやく把ば乃なり根ねををくく灸しゆりり

一いっののけけへへ灸しゆりり目めをを灸しゆりり

一いっ想しやうしてして灸しゆりり目めをを灸しゆりり目めをを

芒ぼう硝しやうとと水すいををくくまませせ灸しゆりり目めをを

灸しゆりり目めをを灸しゆりり目めをを

一いっ目め中ちゆう肉にくをを灸しゆりり目めをを

乳け小胡(目の中)へ入る 楠玄方出
一男女赤眼小三七の根とて 目の内へ
入る妙なり

解頤 廿六

一落架風も云俗名をいふものなり
天南星とて 善け小調(左の頰)へ
入る中 一在 浮みものなり 醫説ニ出

耳疾 廿七

一聾耳小ハ熊胆とて 耳中へ入て
又 蟬退黒焼にて 胡麻の油と

移り紙よりれき紙にて 耳中へ入
又 蟬退生少を移して 胡麻の油と
茶の通る 耳中へ入て
一耳鳴 日夜歩る 又 烏頭灰と 燒菖蒲
を末して 綿とて 耳とて 入る
一耳痒 小ハ 虫刺入 塩とて 入る
の 薬は 肉へ入る 虫刺入 塩とて 入る
小と 耳内へ入る
一痛後 耳中へ入る 菖蒲の根と 搗き
けと 耳中へ入る
一水 耳へ入る 又 薄紙に けりて 妙也
一耳 痒み 痛む 蛇脱皮と 燒赤身へ 入る

一耳にれよハ茄子候のちもせ能洗水と扱
 去をけとて厚くも耳中へさすべし
 一耳中へおろみ細辛紅紫白黄蘗とろし
 氣屎そく粒丸じゆん俵つみちみ耳とせとてし
 一耳へ虫のちろみ胡麻の油ごま虫むしのちろみ
 入いこし又百部根炒ひやくぶこんせしてちろみ
 油あぶらのちろみ耳門みみかどへおれ
 一耳中へ膿うみのちろみたりみ虫刺むしと葱ねぎの
 ちろみ入いれして水みづと耳中へ入いれ
 少すくくちろみとせしむべし
 一何虫なにむしも耳中へおろみ好酒こうしゆとちろ
 耳中へ入いれてちろみとせしむべしハ虫おろ

はろちろ也とせしむべし

鼻疾 廿八

一鼻淵びんげんハ鼻ちろみ赤あかくちろみせしむべし
 大蒜だいじんと切きり足あしの土つちとちろみせしむべし
 又茄子なすの蒂たきは馬うま糞ふんかてし鼻中びなへ
 一鼻中びなへ膿うみ血ちのちろみ辛夷しんい一い及あ蒼耳子そうじ
 炒あして二分白芷びやくし二分薄荷ぼくわ一分右末みぎして
 葱ねぎと葉はと油あぶらとちろみ汁じゆとちろみ三分
 程ほどくちろみとせしむべし又蜜みつとちろみ綿わたとちろ
 て鼻中びなへ入いれてし
 一鼻瘰肉びなろうと鼻中びなへ肉にくとせし鼻びなちろ

多の涎云蚯蚓を炒て一分皂莢一つ同く
末して分り又鼻中小瘡ゆり明答と
末し綿ふつこ毎日鼻孔と塞きて
又玄参末してゆて去又山梔子取れ
小便しそけとさくせし

酒瘡鼻 廿九

一凌霄花 苑山梔子 各多分末して一斗
つ茶湯少て用又硫黄 明答 各多分
丹分入唾少て新り分り
一鼻小腫物生し臭きふハ大黃杏仁と
末し猪の脂と新り分り

脚氣 三十

一脚氣痛小女取塩と服より足跡まで
了りゆりゆりして焚ゆと治て
他腫しむ脚氣小ハよりゆり
一腫しむ脚氣小ハ白芷白芥子各多分
粉おして生薬れけと新り分り
一脚氣胸つきぬり若くもたゆり海香に末
小水并ぬり三々を脚と浸て
一又羊夏生姜のゆり

一 霍乱吐瀉小肉豆蔻末して生薑湯に
用也

普濟方ニ出

一 霍乱轉筋ハ一此れ筋引つてしむじ
蓼之末香薷末してさゆく朝

一脚脛筋筋すふ木瓜でほ水をもろろ
煮ららしつ手合布ふつてせり

冷ハ丸久あはれくふしてせり
又男れ筋筋小ハ張蓮以強く川女ハ丸乃

乳房と丸右ハ川魚

一 食傷くも霍乱くも吐瀉乃後將筋す
るハ木瓜と酒とせり 且 茶右の煎湯

とて布ふひし一足とつてせり

又同筋筋引はくもあつて今とすくハ地

わて暖くしてせり

又將筋腹小入分ハ病ハ倒

臥とせりしつてしつて腹の中平

衛生易簡方ニ出

一 筋違少て足の裏小はぬ知るにハうまん

乃粉以水と酒とせり 又去息と粉

少して粉と粉とせてせり

一 足の指破くたのむくたれ膝

緑茶水飛して先塩湯とせり

拭て治へ右れ葉と捨りハう又汁茶

ひびくはるもろし又足指のきほおき
れそきれみろもろし

陰囊 三十二

一 疝氣少陰囊腫痛ハ馬鞭草とつぎ
煉じて灸てよし又荊芥穗とよやき
して焚酒を月み倍子と焼末して
焚酒を月由右疝氣少一疝痛ハ足
すくもろも焚酒を月

一 小兒陰囊腫痛ハ蚯蚓と干粉ふして
唾と調分

一 陰囊より臭きく木香と好磁石浸
末して灸

一 陰囊よりいりきく蒲黃を灸てよし

又山林と杏仁と合せて合せてたれ
よあつふあつてもよと丸

一 陰囊より水くれ腫るよ白聖の若
かり加

一 陰囊を瘡生るよ女蜜灸乃耳叶末で
志きよふあつて妙なり 千金方出

一 陰囊腫痛ハ馬齒莧つきたらふ

一陰部腫るる成るの如く赤くハ痒故ハ
痛くはれらる如く相水に煮て一洗
一陰部腫る成るの如く赤くハ烏賊甲末
して分る一又古き田螺乃殼を焼きて一洗
て分る一但し下地を塩水にして六七日能
はてすの如くや分る一得効方に出
一男女の陰毛中ハ小氣の如く出る虫生
一痒小銀杏皮を三分し類小虫を以て
又也身小氣の生るるを好むと云ふて
飲して分る

痔並脱肛 三十三

一小兒脱肛ハ蝸牛を焼きて猪の脂小
て潤分る又田螺を焼きて胡椒乃油
くゆりける

一痔痛ハ熊胆と煮て妙之 外臺秘要
一痔瘡鶏冠の如く成る者連の末しく
赤小豆の末を粉よして合せける 丹波公

小便閉 附小便不禁 三十四

一小便不通小管詰矣一腰湯して在

又田螺の肉(塩)を丸入肉で丸生しすは
 臍の下一寸五分の所に通す則ち
 小便通せしむと校桐と馬蹄にて酒
 水等々和して用妙なり
 一膀胱病ハ男女小児皆之小便久しく
 せし小便卒に通せしむ小腹脹しむハ
 麻仁水とせんをきりにのそよ
 一小便をけき小胞と馬蹄にてきり
 用又た子種子食してきり又胡桃と
 炮してきりと温酒にて用
 一小便多く通し之を象身以て焼く
 て用

一遺尿ハ小便多きを過する鹿角屑と
 黄芩と小灸り一升つてきり用
 一睡中に小便通するハ赤小豆を
 つけしきりしきりしてきり用
 又桑螵蛸をきりしきりしてきり用
 一小便餘瀝ハ菴蓰子末して酒と
 用但し之をきりしきりしてきり用
 一小児が小便睡中に過す破胡
 炒末して酒と用

痲病 三十五

一諸痲と論すハ乱髮里々焼いて用

日 服二三度温酒と利男小女の髪女は
 男の髪と利を血癖と云うてし
 又鮒魚腸のりと馬髪酒と利

大小便不通 三十六

一二便りの通せ腹脹のりし皂莢酒
 抄ふて蜜と丸し肛門へ入てし
 又八病後秘結法系するしきふ紙より
 小胡麻の油とを浸し肛門へさく捨
 みてし肛門の内蚯蚓など丸遠のり
 いびくまて馬鬃通下通せべハ
 少くいさすし

諸瘍腫 三十七

一無名腫ふれ牛膝の根(き)細(ち)くし
 一翻花瘡ハんを腫物破けて久し(く)て
 悪肉(あくにく)の(ま)ま(い)ゆる也 馬(うま)糞(い)と焼(や)き
 猪(か)脂(あぶら)を抄(か)りける又烏梅(くわい)焼(や)きし
 ち又明(あ)り粉(こな)を(ま)じ(め)ひし抄(か)りける也
 小(こ)さい(ら)う(り)流(なが)れ(お)こ(し)る(に) 一味(いちゐ)の(白)菜(さい)を(ま)じ
 一肛門腫(こうもんしゅ)を(ま)じ(め)は(き)き(ま)杏(あん)仁(に)皮(くわ)を
 去(か)す(ら)ら(が)り(せ)る(に) 又小兒(せうじ)の(疔)瘡(じやうそう)
 杏仁(あんじ)と焼(や)き(し)て(ける) 乾(かん)ら(せ)る(に) 杏(あん)
 油(あぶら)と抄(か)り(ける) 車(くるま)林(りん)麈(じゆ)記(き)出(だ)す
 一鷲(じゆ)掌(てい)風(ふう)ハ(は)れ(る)ち瘡(じやうそう)を(ま)じ(め)皮(くわ)厚(あ)く

卷上
 四

癰疔

三十九

一癰疽大小便閉結了らぬ紫艸栝蓏
仁を分ちて用て妙なり

一癰疽癰背小の者へ一兩黃臘

七ふみろり一煉梧子乃大さ丸一

十粒つて用て妙なり

一癰八面も定ふ知る也初め知るは

栗粒のあつて少して或は痛く或は痛

くも熱ありて痛くは野しろ

乃根と豆候少して研て用て又

戴菜はつきらり一丸一

をほく用て妙なり

四十

結核 又八耳のあつては

一結核は瘰癧にも鮫魚肉を研て去

一葛麻子油炒皮をり寝付二三粒吞

一湯で後一生炒豆は食て

又針干皮をり用て去又白芥子粉を

一湯で分て

四十一

疥癬 今云いん疥癬ハ

一烏頭生くぬ煮て洗妙なり 聖急方

又青蒿の子を菌藻くも煮て洗妙なり

小兒一子小瘡生痛甚是以亂髮

一地鷄卵の黄を一つ分と一升の油へ

入すも火をいり髪毛焦れて油を

と使ひ丸瘡の如く之を苦参乃乾

とひしりかろり

一牛皮癬ハ色赤黒く皮厚く牛の皮

皮ねくは漬く内小虫を生す雌雄を

粉じりて粉でかへ猪のわらを漬ける

四十二

膝瘡

一鳳の屎やま胡麻の油を漬ける又淡竹

乃葉をヤキ一又煙粉一と油を漬ける

又此の瘡火くわたりかきもを分を
く小なぐれおしていり

一纏脚瘡これハ膝瘡乃敷き又車州湯

くは荊芥乃是焼て葱乃を厚くけえ

ゆりて妙なり又櫃乃敷き此の

てし

四十三

代指

一地榆乃敷けよし

又梅仁と研き此研て温めよせし

いして妙なり

四十四

軟甲瘡

よらぬら又ハたひを

一蛇脱皮^{よわい}や、灰^{あし}にして雄黄^{ゆうわう}を研^{けん}粉^{こな}に
一先^{せん}研^{けん}て温^{ぬる}めば腫^{しゅ}れ^れ針^{はり}を破^{やぶ}り石^{いし}の
へり^{へり}と夕^{ゆふ}一

瘰癧 (こぶ) 四十五

一沐^{もく}藻^{そう}と鼠^{ねずみ}布^ふと多^{おほ}く粉^{こな}にして煮^にく
移^{うつ}り豆^{まめ}は大豆^{大豆}丸^{まる}一や津^つとの心
一又^{また}右^{みぎ}にさ^さる^る食^く一^つて
一菰^{こも}の根^ねとく^く洗^{せん}ち^ちの方^{かた}の石^{いし}をす
く^くすけ^{すけ}て^て線^{せん}を^を或^{ある}は^は半^{はん}日^{じつ}或^{ある}ハ^ハお
ひ^ひ一^つ玉^{たま}瘤^{しゅ}乃^の根^ねと凡^{およ}く^く一^つ一^つ日^{じつ}
乃^の心^{こころ}の^の丸^{まる}を^を人^{ひと}の^の又^{また}糸^{いと}を^を丸^{まる}

一丸^{まる}一^つ瘰^{れい}癧^{げん}の^の心^{こころ}を^を丸^{まる}にして^{して}龍^{りゆう}骨^{こつ}評^{へい}
子^こを^を丸^{まる}にして^{して}一^つ急救^{きうきゅう}易^い簡^{かん}方^{かた}
又^{また}紫^{むらさ}葛^{くわ}乃^の湯^ゆは^は水^{みづ}に^にて^て煮^にく^く
の^の心^{こころ}を^を丸^{まる}にして^{して}瘰^{れい}癧^{げん}の^の根^ねと^と丸^{まる}を^を世^よ
一^つ二^{ふた}区^{くわ}灸^{しゆ}す^す一^つ

癩風 四十六

一紫^{むらさ}白^{しろ}癩^{れい}風^{ふう}小^{せう}貝^{がい}母^ぼ天^{てん}南^{なん}星^{せい}を^を丸^{まる}にして^{して}
生^な姜^{しょう}汁^{じゆ}と^と合^あして^{して}丸^{まる}一^つ又^{また}蛇^{へび}脱^{だつ}皮^ひ
を^を丸^{まる}にして^{して}丸^{まる}一^つ又^{また}白^{しろ}烏^う
髪^{かみ}乃^の皮^ひと^と灸^{しゆ}す^す一^つ一^つ日^{じつ}

巻上 四百

又う玉白湯うまふおれ根乃玉とすて
 一 生好くハ干身乃根粉ふしてあそ
 移りおろい根乃玉とすてあそ
 又 雜摩き乃白き汁とすてあそ
 一 紫癩小ハ知母と研と磨一口り
 三度根乃玉とすて
 衛生易簡方
 一 汗斑を麦汁と癩風と添うりハ
 厚き厚朴と黄丹と等々粉少て
 清水の時癩のふと研と赤くあそ
 了して右乃粉茶とすてあそ

凍瘡 一モヤ多

四十七

一 滑石沈末してろろ油とすてあそ
 又 牡蛎白煖少してろろ油とすて
 移りあそ 又 西菴やき末したれあそ
 一 移りあそ 破砕りふハ生薬乃け
 酒と一加て移りあそ

毛髮

四十八

一 毎元日ハ木香湯ふて髪と波
 老いいりまて

四十九

踊

ひいあま

一ひひ白藜^{びろ}水^{みづ}に抄^{すり}ふ^り水^{みづ}を^を移^{うつ}す^るを^を分^{わか}る^る
一わらぎ^{わらぎ}れ^れぬ^ぬは^はけ^けく^くま^ま云^いふ^ふは^は根^ねと^と律^{りつ}
お^おて^てき^きし^して^てき^きれ^れ只^{ただ}入^いり^り候^{こう}也^{なり}
か^かす^すく^く又^{また}白^{しろ}藜^りも^もう^う

五十

便毒 俗^{よこ}に^に秘^ひす^す乃^のつ^つも^もぬ

一射干^{しゃく}と^と生^{せい}姜^{きやう}と^とん^ん食^くふ^ふも^もち^ち
二三度^{二三度}大^{だい}便^{べん}通^{つう}す^すを^を候^{こう}なり

下疳瘡 五十一

一男子^{なんし}ハ^ハ陰^{いん}莖^ぎノ^ノ瘡^{そう}也^{なり}女子^{にょし}ハ^ハ陰^{いん}門^{もん}也^{なり}

瘡^{そう}と^と生^{せい}便^{べん}粉^{ふん}乃^の敷^{しき}と^とみ^みく^くや^やす^すの^の
ぬ^ぬり^り也^{なり}

一鶏^{にわとり}乃^の卵^{たまご}乃^の殼^{かき}を^を炒^{あぶ}粉^{こな}ふ^ふて^て
あ^あら^らせ^せし^しゆ^ゆを^を移^{うつ}す^すに^に候^{こう}

又^{また}久^くく^くい^いと^とま^まら^らふ^ふハ^ハ阿^あ黄^{わう}菜^{さい}也^{なり}

か^かし^し竹^{たけ}乃^の虫^{むし}く^く也^{なり}虫^{むし}を^を移^{うつ}す^すに^に
て^てけ^ける^る但^{ただ}し^し古^{ふる}き^き菜^{さい}乃^の干^かく^くも^もと^とも^も
下^{した}地^ちと^とあ^あら^らし^した^たの^の菜^{さい}を^をひ^ひ移^{うつ}す^すに^に

婦人 五十二

一婦人^{ふにん}月^{つき}水^{みづ}調^{てう}候^{こう}後^ごに^に或^{ある}は^は多^{おほ}く^く候^{こう}也^{なり}

或云く或ハおれく、氣力あるより、
 ころころハ香附子半日シ、
 或ハ多ク赤して破れ、
 大ハ小丸一湯之月又者多ク通
 丁ハ小ハ所膠炒末して、
 一月水來る付腹痛ハ、
 少ハ妙史胡索紅花等々粉して
 温酒之月

一月水久しく止るまで血崩之月、
 血崩之月ハ蜂房を粉して温酒之月、
 又蕭黄炒英等々、
 月未して二五粒を温酒之月

産後多ク血下るハも用一、
 一滯下赤白冷海、
 一赤白帯下ハ貫首、
 毛と化して、
 下ろの造多ハも用也

一赤白帯下ハ、
 長粒ハ、
 紅糟豆ヤキハ、

一、夏中塩湯にて月一

一、灸法婦人の臍下一寸許下此一のまは
の妊脈通ふ一穴十一壯又足の踵の上

二、不ふ一穴七壯灸了て一妙なり

二百血長血一切腰氣ふ鬼わしは乃根

羊羹菓子と陰下にして一又古き鳥

賊甲と抄ふして七右小豆は又まふ

丸一初日一粒七日は各一倍申す月

大血下るるを方一で次まをるる月

一、ゆく小産了るるハ杜仲一味焙り末

煮る肉あて丸一糯米飲て月一五ヶ月

と鹽胎をるる二月まふるる月

一、臍胎の腫氣にハ鯉魚一匹赤小豆二合

半水三升浸入煮熱して食す一

煮汁とものむ一大便通して愈

一、臍妊咳嗽貝母灰うぐんの粉を湯で

煮るふ妙砂糖を黄芩乃大廿丸と

一丸つ月毎なり

一、臍胎乃付数ハ倒まて或ハ重き物と持

或ハ州乃びるどして乳くびくとれ胎

動一腹痛はハ縮砂と妙粉よて

温湯を湯で用はと飲はるるハ艾と

水と茶一塩少一入右の茶と湯で

月又川草一味粉をて一又く

酒と月又死胎を子腹乃肉と死る

おも月死胎ハ母乃腹也ハハ子も動

けり

一難産ハハ臍乃免毒以馬焼けて

葱ノ白根とせん月又車若子保保小

一七日月ノ酒飲さるハ水と月と妙三

一教日産せりハ瞿麥子はと月と妙又

一逆産ハ常帯乃未酒と月子母秘録出

一或を換産ハ逆産ハ逆産又ハ死胎

又ハ胞衣下りるハ六月を月乃ちり

丸山榊ノ葉と陰下にて集り伊勢

小のくさくさくとも乃そ妙り

又七月七日ハ蓮蓮の花の葉をふ人のまよと

て芝月ノハ又茄子のハハと忌履かて

萩の木の葉は是のうはく下ると

去り拭い去りハ又苧麻子も木の皮

了つどハ是れハハ下りて下りハ去り

拭り去りハハハ子腸がよ

一産よのぞいて腰甚痛ハハ妙地ハ

と行くとて

一救産ハ食たりハハ産帯乃木の皮

小ゆびの皮ハハ三壯者

一産後血暈血礼は人ハハ反張危

きにハ荊芥ハハ生きたハハ妙り

粉にして豆飯の童便ちゆうべんを以て之を煎じて
用産後諸証乃妙方之古敗教と云々
胞衣下りしるに温酒を用

一血暈に神曲粉しんくわうこなにて童便ちゆうべんを用

一産後子腸こちゆうゆるぎ甚麻子いままこ殻がらと片かた

すて産婦の頂うぶきよりして子こを以て

煮湯にゆに投なげし

一産後陰門腫いんもんしゆうりし桃仁とうじんを膏こう月げつに

少すくして之これを

一産後渴みどき此方このかたより美芳みほうを以て之を

水みづに温服ぬるまへす

一産後惡血あくちゆうせめり胸むねを以て之を煎じて

爵金しやくきんと燒末やきすえと研ひき等ら由よしを吸ひきて之を
以て妙方めうかたと袖珍方すくしんかたと出

一産後惡血あくちゆう滞とどり腹痛ふくうしし姜黃きやうわう桂心けいしん

と以て之を以て酒さけに用もち煎せん血ちゆう下げりて之を

一産後呃逆えつぎやくしし柿蒂しあひた山さんを以て之を

以て之を以て酒さけに用もち煎せん血ちゆう下げりて之を

一産後血乱ちゆうらんき啼なつ笑わらつしし小こを以て之を

と燒末やきすえと食くれと以て之を以て之を

一産後惡血あくちゆうせめり面おもてわくく多く怒いりし

牡丹皮ぼたんひ羊兩やうりゆう乾膝かんせつやき煙かえりと以て之を

名なを合あひしし丹たん 諸證辨疑出

一産後言語げんご了りやうりしし丹たん 白はく石せき

攻發湯小入煎一

一產後血赤心下注喘ぎあやまふ
血竭 沒藥 各五分 未で童便酒を加て煎

一產後血毒心下注邪祟のこく瘰癧

小飛辰砂を酒に煎一 得効方

一產後血汗切るるを葎草根とつき

之煎汁を呑くく小瓶少入のき酒を

ふきくは利小便を白き汁出てい也

一產後陰の閉るるを硫黄呂宋葉 兜

節子 各五分 蛇床子 八分 水に

ふくはく陰の注一

一產後遺尿をてお水も小便通するを

鶏乃膏燒去一五箇く用一

一婦人乳管の不通 括婁根を燒かして煎

一婦人吹乳小ハ白英小蜜とぬり灸

粉かして一々酒に煎一 又百合根

攻研てけりし乳癰小もよし吹乳ハ

後より乳風を乳癰ハ乳腫物を

又乳乃腫物を三稜を酒に煎一

一乳頭破きしは臙脂は蛤粉を

合してけり妙なり

一婦人吹乳遠志焙去一酒に煎

衛とくはるるをけり 袖珍方出

一豆淋酒の法は大豆を炒酒に煎

一女子月水停て通せらるる一箇根一箇 通てて之一月即ち通する

一婦人年五十九後一經水止一心る
に一茜根一一箇一阿膠一側一拒粟一煑一黃一
各五文一生地黄一一箇一小兒の産髮一ハハ
思一やき一い一て一合一せ一未一て一之一月

小兒諸證 五十三

一産子乃く湯入差一母一茶一を一あ一び一せて
よ一く一茶一を一の一公一使一

一小兒生下して啼一く一之一を一さ一ら一ぬ一冷一水一を
口中へ吹入て一よ一く一又一面一へ一吹一く一て一よ一く

一小兒鼻一字一が一り一ら一ぬ一天一南一星一と一炮一
粉一を一て一吹一く一小一調一へ一帛一を一か一き一て一懸一つ
に一付一く一て一吹一く一て一わ一ら一ぬ一の一下一へ一小一兒一直一夫

一小兒脐一小一小一瘡一が一成一た一る一を一黄一白
粉一を一て一吹一く一て一か一る一る一

一小兒赤目に胡一黄一連一乃一末一を一茶一と
之一の一を一是一乃一中一心一を一吹一く一て一吹一く一

丁母秘録出

一 小兒臍たれ多く者仁皮と去研けん
 一 臍よりてい名づる龍骨五倍子坐くら未
 一 してひ移るる射香少加てり
 一 小兒顛門とれり小麥相末し水と
 移し足心とつあせり 普濟方
 一 小兒臍風撮口ハ産褥乃内小口と嘔吐
 面とての喘し急如淡乳のしめりり
 法もき大りれ證有り大蒜とてく切
 へき臍小をきこれと灸てり口中蒜
 乃白していぬし又茄子れ乾とやき
 末し於底乃油と移り口中とてはし
 一 鵝口瘡ハ口中一面小白き地とて

乳のじりり次し急もゆるく候と書とが
 又いふ麥連黄柏等分拈茶細辛半
 加へ末して口中にぬるし

一 乳蛾ハ咽腫つし并麻一味濃煎乳
 一 痘瘡後の鼻瘡小辛夷と末して大香
 分入葱白れ汁と酒(鼻中へ入) 本竹綱目出
 一 小兒夜啼小牛黄少末して乳と酒(用
 臍乃下に田乃字書て妙なり)

一 小兒月蝕瘡ハ耳根とまりと一小瘡
 如て破きたれり胡粉少麥連半
 末して外へ一口吻と候わくしと云

一 小兒陰囊赤りいゆきとハ蒲黄とて

一又陰囊腫小天花粉一兩半
 炙一兩小柴一酒少入煎也 全効心鑑出
 一小兒驚風虛實多々代精石燒研
 入酒中夜に研末水飛して冬瓦
 仁乃炙湯と用て妙也
 一黃令成丸一右乃茶さいく用妙なり
 又六月七月乃内之蚯蚓と死一筋つ中
 竹葉と水と断し強くと経動する
 して中々動する方と云ふて内
 つくると色一能泥と洗り水乾と
 つきたらし水飛辰砂と入てつき合せ
 丸を辰砂ハ丸上成るものなりと入て

一はく動する方と急驚小用ゆくと動
 する方慢驚風と用へ急驚風
 と急驚乃丸一けし用慢驚風
 人參乃炙湯と用へ丸一法大豆の
 大き丸一細くきほたの炙けしと用
 一小兒解煩と用ひ乃茶さいく合
 防風白朮柏子仁等と煮て乳ふて
 之のへりて
 一小兒嗽と用ひ成る方と蝉退と煮て
 汲よその水と用へ
 一夜啼止る方と蝉退乃腰ひと煮て
 為荷乃炙湯と用ひ入用て妙なり

一 小兒涎多^ひ柔白皮^ひ濃^ひ厚^ひ口中に
貼る^ひ口瘡^ひふも^ひ

補遺 五十四

一 陰囊偏墜^ひ小^ひ天門冬^ひ烏菜^ひ各^ひ等^ひ
せん^ひ用^ひ 活人書出

一 腸痔下血^ひ多年^ひ止^ひら^ひ木賊^ひ枳殼^ひ
各^ひ二^ひ分^ひ干姜^ひ一^ひ分^ひ大黃^ひ二^ひ分^ひ同^ひく
炒^ひ思^ひく^ひ未^ひ一^ひ粟米^ひ飲^ひ少^ひ二^ひ分^ひ用
奇^ひ妙^ひなり

一 咽^ひ之^ひ紅^ひ之^ひ或^ひ之^ひ喉^ひ痺^ひふ^ひて^ひお^ひや
ふ^ひき^ひ白^ひ姜^ひ蚕^ひ之^ひ炒^ひ未^ひ一^ひて^ひ生^ひ姜^ひ汁
ふ^ひく^ひ人^ひ之^ひ地^ひ入^ひ立^ひ妙^ひ之^ひつ^ひゆ^ひら^ひ

或^ひハ^ひ海^ひ後^ひ乃^ひ瘡^ひ咳^ひ小^ひ好^ひ茶^ひ之^ひ等^ひ未^ひ
て^ひ一^ひ分^ひ未^ひ一^ひて^ひ用^ひ妙^ひなり

一 小兒吐乳^ひ諸^ひ菜^ひ効^ひ之^ひ白^ひ豆^ひ菟^ひ縮^ひ砂^ひ
并^ひ州^ひ生^ひ才^ひ灸^ひ減^ひ未^ひ一^ひて^ひ児^ひの^ひ口^ひ内^ひ
丁^ひ之^ひ也^ひ妙^ひなり 又^ひ大人^ひ乃^ひ交^ひ胃^ひハ^ひ食^ひ
之^ひ北^ひ之^ひ即^ひ之^ひ吐^ひ乳^ひ也^ひ之^ひれ^ひ小^ひハ^ひ白^ひ豆^ひ菟^ひ
縮^ひ砂^ひ各^ひ二^ひ分^ひ丁^ひ子^ひ一^ひ分^ひ陳^ひ米^ひ一^ひ升^ひ
黃^ひ土^ひ之^ひ粉^ひ之^ひして^ひ等^ひ之^ひ妙^ひなり 古^ひ之^ひ
は^ひ未^ひ一^ひて^ひ生^ひ姜^ひ汁^ひ之^ひ酒^ひ之^ひ梧^ひ子^ひ乃^ひ大^ひ之^ひ
丸^ひ一^ひ毎^ひ夜^ひ百^ひ丸^ひ之^ひ湯^ひ之^ひ用^ひ妙^ひなり
大^ひ倉^ひ丸^ひ之^ひ名^ひ

一 腸風下血^ひ之^ひ白^ひ芷^ひ乃^ひ未^ひ二^ひ分^ひ未^ひ飲^ひ之^ひ用^ひ妙^ひなり

一脾胃虚脹満小便少く少小寛中丸と
 月白木之皮陳皮四反未てほねおて
 猪子乃大く丸し食あて三年軽く
 木香乃製湯て用妙なり
 一とを切ちて食し怒りあてしひの甚
 しと吐下するは法茶をりしをきよ
 延胡索紅糸三反経温酒の酒を用り
 ちりくして大便通してしをきよ
 一小兒乃痺痿ハ痺疾也大便下るなり
 之れ上赤石脂川芎等分ちて茶飲ん
 二以りく用て妙なり
 一痢病後脱肛等赤石脂伏肝

等分ちて水各少加て分て妙なり
 一耳甚く痛く或ハ虫ちり耳中入又ハ血
 ちり又ハ虫いじむは蛇脱皮燒灰みり
 鷲管少て吹入て妙なり
 一酒食魚肉等之食して腹満脹あるよ
 かりん丸六粒を蒸くちり温水に飲下
 ちりり二三通少してる
 一婦人懐妊心痛アるは塩とわくやき
 ほくし一撮ころり服して
 一腰を閃きてしむハ糸曲成るくし
 温酒に用てちりり
 一産後乳と止るにも糸曲て妙なり

一日二枚度ニ取つて用
 一産後腹大痛くは喘して竹の
 ころり商陸三枚大戟一枚甘草遂炒
 一取合して粉おし毎服二三枚湯之
 利大便通すと度之次水病流る妙也
 一母穿しそりしは疾藜子と未
 一日二枚度つ水し用とるしあり
 一五種乃黄疽小秦先ときしほし
 汁と之取少用して大便利すと度之次
 一産後血より空衛喘ぎ方し
 一騾蹄竭没薬各一枚未して重便
 して用

一産後の諸疾小益母草根莖とそり
 焼少して未し蜜と丸し或ハ童便と用
 又ハ湯飯湯と用
 一産後血塊痛小姜黄桂心と未して
 酒と一丸取つて月瘀血下りて用とる妙也
 一荆芥散又愈風散又如聖散と名く華佗
 の方也産後中風口噤めは是後血運
 して心氣を治し息して婦人血乃とら乃
 妙薬之荆芥穂と少し焙未して童便又ハ
 豆淋酒又ハ當飯と人湯と月或ハ荆芥焙
 當飯酒製家等と未し用して神也
 一痘瘡のりよく成るは穿山甲と蛤粉と

等分細末一广香少加温酒之用
し則ちわらわくわく

一治風犬咬痛衝心不知人事

黑豆一合 生姜十文

右葉之人山水豆入三豆之入一
多く吞下

一曰附葉

瓶乃糞糞と糞炒て粉して是砂漿

少て湯のけり咬し不と能く洗ひえり

付わく

又法石膏一味細末一服又

卷之五終

韞匱藏方卷之下目錄

青黄丸

和中飲

痒疥瘡

ひせんひせんの葉

くすねの葉

諸腫物下

丸乃丸乃疼疼き

めわめわひひき

桑山藥

青苔丸

妹尾膏

千金寄應丸

如神丸

玄之湯

治腋臭神効あり

三白散

良香丹

わつし菜

鬼節子圓

國分散

沉香丹

わわし菜

やあとの菜

何れも物と名を

くけの菜

金瘡血まめ乃方

ひそりにしりまらう

たじ

懐妊せぬ菜

陰水もれぶ乃方

薬うごき痛く寄妙

咽病の妙

同魚鯉

小児瘡

円口瘡

灸愈

西大寺豊心丹

肥兒丸

氣付

洗肺圓

阿魏圓

川越血マメ

腫物業

痰きり

めわりのり

薬

手ねん散

灸乃火毒骨へん

喉痺乃り

洗目乃り

下り茶

合歡散

生肌止痛散

鼠喰茶

疔乃茶

腫瘰乃茶

藥香煎

韞匱藏方卷之下

青黄丸 清林菜と云

揚梅皮 四十目 木香 二文

莢朮 二文 唐 酢之妻 胡黄连 一文

丁子 二文 胡椒 二文

人參 二文

右抄してのり之丸

同 青木藥と名ふ方之

丁子 一兩 莢朮 二兩五分

胡升 一兩五分 厚朴 二兩五分

揚梅皮 八十五文 熊膽 二分

右九一丹七各一也 右一皮に八三分

和中飲 一名白傳方藥 一名枇杷葉湯

肉桂 木香 藿香 吳茱萸

蕤朮 枇杷葉 各五分

食傷霍亂不用藥之ん水半分入之度

方寸匕一劑

一批把葉と水とあらしめし一匙一匙此

毛と布^{たの}を去る^{たの}と切丁を酒と洗^{たの}

石^{たの}へん^{たの}灸^{たの} 生姜汁と洗^{たの}あ^{たの}方

あり酒乃方本方なり

痒疥瘡 濕瘡^{しつそう}小^こ 伏藤^{ふしどう}氏

湯乃花 五兩 雄黃 三兩

換椰子 三兩 百藥煎^{ひやくやくせん} 二兩

輕粉 一兩 木香 一兩

右六味雷丸の油^{あぶら}して^{して}研^ひさい^{さい}ける

七日浴^ゆせり

ひびんもじ菜

雷丸 十文皮^{くわい}と去 樟腦 一文

山椒 三十粒 百竹霜 少

水銀 一文 胡桃 見合

明礬

一匁

右布小はくこまはうらちもくはく
そ乃内湯水はくふりて忌

くすね乃菜

輕抄小を、二分一入食とく推まを
けろ牛蒡乃菜少くわたりかき
大きなる箱とす灸乃ちをなす

腫物下

五八草

五

沉香

五
伽羅木

干梅

四
は杯とけり肉くろく五ヤキ

ぼろ

四

敷服小おふ内ハ梅肉といふ

口傳小曰

五八草

海印しそと五ヤキ 五とこれあか目
かきりそこれろく 蛭貝の物か
五とこれろく

沉香

黒ヤキ小を 伊能と死つるも
五とこれあか右よ曰

干梅

黒ヤキ小を去
四とわろく右よ曰

ぼろ

川ノ居蟹 忌ヤキ小

右匙くも五四と細合ふハ同茶散
小してはくく用

氣乃(はき)疼(き)

黑砂糖 五斤 糖(はち)を去(は)る

肉桂 七兩 丁子 六兩半

干姜 三十五文 胡椒 三兩

右煉蜜

目洗藥

菊花 大 黃連 中

黃柏 中 山梔子 小(は)ち

明礬 一(は)ち 猪口 一(は)ち

右水 一(は)ち 猪口 一(は)ち

桑山藥

苦參 一兩 皮(は)を去(は)る

人參 一兩 藜蘆 一兩 洗(は)す

黃柏 二(は)ち 白朮 三(は)ち

菘朮 一(は)ち 白朮 一(は)ち

右 一(は)ち 丸 一(は)ち 丸 一(は)ち

用

青苔丸 小兒五疳小(は)ち 大極妙

換椰子 木香 白朮 黃連

香附子 龍膽 干姜 三稜

青苔 青皮

右末 一(は)ち 丸 一(は)ち 丸 一(は)ち

油 一(は)ち 川 臭 一(は)ち 切 一(は)ち 切 一(は)ち

妹尾膏

妹尾太郎兼元乃方之
大和方愈膏茶

角石 鹿角ヤキ之 蛇骨 鼠糞ネズミノ

三味各各分 松脂マツヤシ 十錢

右胡麻乃油之新膏新膏了口傳日

右海狗油之新膏新膏了口傳日

松ヤシ松ヤシ之膏膏

千金寄應丸 老幼男女百病之

人參五錢 沉香 日 麝香 半錢

為末 熊膽二錢 水水之和和丸

黍米黍米乃大大之金箔金箔之衣衣之

每用大人ハ五六粒 小兒ハ三粒三粒之

食傷霍乱積疼痛痰飲痢疾卒
暴氣絶驚風搐搦痘疹癩出
産後諸疾胞衣下下久病久病氣
倦諸病名狀名狀之之心腹疼痛
と治す

如神丸 赤白痢之治す

杏仁杏仁 乳香 沒藥 各一錢

沉香沉香 黃連黄連 小麥小麥 各一錢

右細末して調合水水之入新合新合之

丸一辰砂辰砂之衣衣之丸丸之百竹百竹之

一白痢之燈心燈心十篇十篇之三分入三分入之

下也

一赤痢之ハ急之下也但一法之^本法^本者
付八九二三粒大黃乃其湯之下也^本格^本
て妙なり 私自赤痢なりハ有無^心なり
大黃乃其湯之下也^本なり

藥湯

藁朮 葳靈仙^{いれんせん} 各十文 忍冬^{にんとう} 十五文
菖蒲根 七文 石菖蒲^{いししょうぶ} 七文 蒼耳^{そうじ} 七文
槐^{わい} 七文 川芎^{せんじゆ} 七文 當飯^{たうはん} 七文
丁子花 二十目 羌活 十文 独活 十文
防己 十文 桑白皮 十文 牛膝 十文

右十五味ありき湯一升^{しやう}して二^に日^{にち}を
けり^{けり}一^{いち}日^{にち}を^をけり^{けり}一^{いち}日^{にち}を^をけり^{けり}
又^{また}下^{くだ}す^す一^{いち}日^{にち}入^{いれ}心^{こころ}二^に日^{にち}を^をけり^{けり}

治厥真神効あり

丹礬^{たんらん} 一兩 丁子^{ていし} 日 山藥^{さんやく} 日
そとこ一^{いち}文

右粉^{こな}して一^{いち}服^{ふく}一^{いち}文^{ぶん}也^{なり}付^つけ^け法^{ほふ}ハ^ハ服^{ふく}の
下^{くだ}乃^{なり}毛^{もう}を^をぬ^ぬく^く所^{ところ} 洩^{しやう}天^{てん}目^{もく}一^{いち}文^{ぶん}を^を
生^{せい}着^{ちやく}と^とす^す也^{なり}大^{だい}栗^{りつ}子^しハ^ハ入^{いれ}心^{こころ}二^に日^{にち}を^を
し^し服^{ふく}下^{くだ}を^をぬ^ぬく^く所^{ところ} 洩^{しやう}天^{てん}目^{もく}一^{いち}文^{ぶん}を^を
右^{みぎ}丸^{まる}粉^{こな}ま^まわ^わり^り以^もて^て身^みを^を洗^{せん}ふ^ふる^る也^{なり}

此くちなる時ハ又一文付るごとく
至^{しつ}上^りく妙方^り明^り若^りヤキ^く
行^りる^り法^を使^はふ^りなり

此若^りヤキ^くと^しと^し毎^日地^を下^に
く^り使^はひ^ける^り時^ハ一^文付^るなり

三白散

葛粉^一 天^花粉^七

桔^梗一^支 甘^州二^分

右^末く^て甚^く瘡^口中^に丸^を丸^を使^はす^り

小^舌喉^痛を^治す^り

良香丹

良^香四^兩 白^朮二^兩 肉^桂一^兩

甘^州一^兩 口^傳甘^州を^入る^り

右^煉蜜

熱湯藥 根来

人^参五^分 當^歸一^分二^分

地^黄十^分五^分 苟^藥六^分

菴^冬一^分 川^芎一^分二^分

香^附子^五十一^分
少^くい^はす^りは^する^り

右^のま^じり^の妙^り

菟絲子圓

菟絲子

十五分 酒二三日分

山藥

六分 酒二三日分

補骨脂

六分 酒二三日分

蓮肉

六分 酒二三日分

白茯苓

三分 皮去水

茴香

七分 酒二三日分

右煉蜜

虛症老人若人下膈弱腰膝弱痛

小便不利大便多一症氣陰虛

之方

國分散

丁子 川芎

枳殼

菘朮

芍藥 地黃

當歸

黃芪

木香 干姜

陳皮

茯苓

桔梗 三稜

厚朴

各四分

山藥 土茯苓

白朮

香附子

各四分

青皮

胡黃連

良香 人參

甘州

各二分

胡椒 一分五厘

右粉藥

沉香丹

沉香	三反	木香	四反
丁香	二反	貴皮	四反
青皮	二反	茯苓	三反
良香	一反	乾姜	一反
人參	五反	广香	五反
三稜	二反	莪朮	二反
白朮	廿目	肉蔻	二反
白蔻	二反	訶子	一反五分
洋州	一反		

右細末煉蜜調

目洗藥

法眼より一ヤミぬ
 寺妙水少入さくわん

滑石 一反
 炭 二反
 たんらん 三分
 右乳鉢くくす

やあど乃きり
 栗の皮と毛やきにして付

何とも物とす
 赤上と終くやき粉にして輕粉かし
 水くこきける天下第一の妙なり

香乃きり

右松に...のけ...

金瘡血止めの方

犀角粉...舌...也

ひ...

夕...の葉...又...也

...

...

緋屋...妙...

懐妊...

木綿...後...也

...

陰水...方

蚕乃...の...雄...

陰干...合...

...

...

蜂房...山椒...鹽...

右...此方...家

咽氣工妙 さま

南天乃藥未してゆく薬々しくも又... 翁

咽工魚親いそりとらたると又何くも

にちちり妙

蜜柑みかんとそれと皮をとりてちちて

ヤキあげて性せうを好くして

かへにちちり妙にして喉中へ入る

入る天下才一乃妙方 信長公の言

小児こゝろ痰乃たんなくぬ物もの公こう赤く想おもひ

瓜うり 瓜うり

牛膝

赤小豆 各小分

右細末してけり又絆屋くわいの薬あけは

も竹たけの地ぢへは痛いたハ大おほく

小児口瘡こうそうとて舌したく切きて

法はふと又ハ口吻くふんと知しるも用もちき也

蒸 忌いマキ大 小

右みぎひ移うつり

灸しゆ久くく

蔓椒まんしやうとてけけけ

西大寺豐心丹

人參七分 沉香 丁子 藜蘆

換榔 縮砂 甘 各二分

藿香 一分 木香 白檀 三分五厘

芎 一分 龜腦 肉桂 各六分

丁香 八分五厘 上茶 十二分

光明丹と云ふ

肥兒丸

人參 青皮 史君子 山查子

麴 各五分 白朮 陳

蓮 縮 各一錢三分 山茱 五分

苓 木香 一分三分 甘 一錢

氣付

芎 飯 朮 沉 各一錢

參 二錢半 白芍 三錢 甘 一分

右末にし 湯にてよく大細する

洗肺圓

乾姜 八分 丁子 四分 水砂糖 四十月

乾梨 四分 雙 四分 甘 二分

右末にし 三年ほふと以て孫

勞咳濕痰、妙なり

阿魏圓

揚梅皮 十文 胡椒 胡黃連 各一文
右細末して水で丸を積痞不食
胸虫治る 虫日 食傷日

川越血留

根来八味家方乃
秘傳

血留と云ふは血を留む事なり
入燒酎と云ふは酒を焼く事なり
乃ち腹やあはれ腸と云ふは
其乃根よくあはれ七中の一丸
はしと一丸と云ふは
右と云ふは水で丸を積痞不食

川むらひ乃儀ともその血を留にす
くろく対するは右に云ふ事なり
如帝を此等と目するは其事なり
之は早速血を留る事なり

腫物藥

首より上の腫物に大妙
小児の疔に極好

青松のちりしを湯で洗ひて胡椒
油と混ぜて丸を
口傳に日長きに古くして丸を
一丸

痰切 極秘方

黑砂糖 一升 乾姜 五匁
 肉桂 一兩 丁子 兩
 半隻 一兩 胡椒 二匁
 右粉にして黒砂糖と一俵をこし
 きて粉菜と入浴する但し多量砂糖
 少くはす

目わりの薬

芸 黄連 石菖根
 右ホ分湯にして少くはす目より
 ぬるわすハ明器やきふすに
 加ふ

胡椒 昆布 紅糸
 胡桃 昆布 紅糸
 食焼干 松乃こま
 各等分七度焼

へきれん散 ちり菜
 赤小豆粉 一匁 エハクヒ 二匁
 黄蘗 二匁
 右粉にして研ぎ移す

灸の火毒骨へ
 虎杖乃根を煎じ用極妙

喉痺乃之予之

耳乃あかしてはてし

実目赤目よ

水仙の玉とすう けと入大妙

とがらき

錦木とて一糸と切きしをこれん

かくれくくは月

下ノ菜 紅花菜と云

山帰来 ぶんいっわとて山より引ん

川芎 芍薬 人参 芍薬と云

紅花 一筋と云 一分ありと云

右に味調合 一服ふしてはこれ

と云 一日に一服と云 二服と云 用也

執力よき病人又極弱は此の表

たりとハ人参多くとハ人参多くとハ

以て紅花と増

一足此非と云 下と云 果と云 腫物小ハ

柏椰子 木香 七厘つゝ加し

一胸と云 上と云 腕拍と云 木香 七厘

加

一下疔ハ 龍膽 薑蘘 七厘つゝ加

さく引極妙

膿瘡の藥

膿瘡二三年以上さうさも尾蠢思
やき粉やしてひきり掛る大妙
右二方とひく効験とゆる

藥香煎

五加皮	十錢目	枸杞子	五錢目
何首烏	五錢目	黑胡麻	五錢目
黑米	十錢目	川椒	少許 <small>此松より 内の白こり ぬきとる</small>
桑葉	四十枚 <small>や</small>	やき塩	分

右香色と炒石臼とひき報夕陽と
以用

但し絹篩と細末を

天影ナ四申辛女月

韞匱藏方卷之下終

天保七^四申年七月

江戸日本橋南壹町目

須原屋茂兵衛

同 菱神明前

岡田屋嘉七



